

第5章 黒河流域における関連セクターの計画

5.1 中国科学院

中国科学院寒区旱区環境及工程研究所(蘭州)は、2000年8月より、「黒河流域水 - 生態 - 経済系統総合管理実験モデル」プロジェクトを研究所を挙げて実施している。同プロジェクトには、中国科学院本部から1000万元の予算をもらい、2000～2005年の期間で実施する。本プロジェクトは、同研究所・副院長と甘肅省・副省長との間で協定を結び、この調査についての協力関係を樹立しており(省の関係機関との協力など)、他の地元関係政府とも協定を結んでいる(どこと協定を結び終えたかは不明)。研究の成果は科学院本部と甘肅省に提出し、政策決定の資料としてもらうとのことであり、水利部とは直接関係していない。(プロジェクトの詳細な内容は、添付資料参照)

5.2 水利部

水利部においても、黒河流域に係る生態環境保護を考慮した水資源の適切な利用計画(開発計画)を作成しており、同計画を国に提言しているところであるとのこと。現在、関係部門の意見集約を行っており、その後正式(国)な計画になる予定である。計画の中味がどのようなものか、また、同計画に関する資料等については、現在同計画が申請中とのことで入手できなかったため詳細は不明である。協議の中で、次のような発言があり、同計画の基本的な考え方を示すものと考えている。「黒河流域の生態環境を保全するためにどれくらいの水が必要になるか。その場合、人の生活を主体とするのか、自然環境保護を主体とするのかによって違いが出てくるが、中国は人口も多く人を主体とした計画にする必要がある。しかし、生態環境の保全も重要であり、同時に人の問題も解決しなければならないと考えている。また、水利部としても、下流域の環境悪化を懸念しており、いかに中流部で節水するかが計画の焦点となっている。」

5.3 その他

(1)西部大開発計画³⁰

この開発計画は1999年に中国政府から発表された地域開発戦略で、過去20年間にわたり政府開発支出が少なかった内陸の10省・自治区に、東海岸地域への開発支出を振り向けるものである。対象省・自治区の中には甘肅省、内モンゴル自治区が入っている。以下の項目を国が重点的に支援することになっている。

- ア 社会基盤開発
- イ 生態建設(封山と退耕環林・草)
- ウ 産業構造改革
- エ 科学・技術・教育の促進
- オ 地方行政能力の向上と外国資本の招聘促進

しかし、本計画が不適切な計画・評価のもとに性急に実施された場合、今までの中国の「開発計画」の例からみて、開発目標の達成ができず環境に悪影響を与えるのではないかと、という危惧が抱かれている。

(2)退耕環林・退耕環草³¹

1999年に退耕環林・退耕環草プロジェクトの全体計画が提出され、2000年からの10年間で全中国で実施されることになっている。担当は国家林業局。

目的は、傾斜度が25度以上ある農耕地の耕作を止め、林地や草地へ転換させ、土壌流出・耕作地荒廃を防止することにある。現在は、様々な地域でパイロットスタディとして退耕環林・退耕環草が実施されていて、近々全国的規模で行われる予定である。

農民には補助金と穀物(補償として)が支給されているが、補償期間が最大で転換後8年間であること、穀物については現在中国政府が余剰としているものを放出していること、プロジェクト後の手当てがほとんど考慮されていないこと、などからプロジェクトの継続性について疑問視されている。

³⁰ China Environmental Sector Update – Third draft (The World Bank, December 2000).

³¹ CCICED Forest and Grassland Taskforce第2回会議(2001年5月)資料より要約。

第6章 各国、その他機関の援助動向

6.1 世界銀行

世界銀行は甘肅省で2つのプロジェクトを実施している。1つは黄河高原地域でのもので、もう1つは河西回廊最西端地方(黒河流域地方より西)でのものである。

(1)黄河高原集水域改善プロジェクトII(China-Loess Watershed Rehabilitation Project II)³²

黄河高原集水域改善プロジェクトIが1994年10月から実施されていて成功をおさめている。

本プロジェクト対象地域は、山西省、陝西省、甘肅省、内モンゴル自治区である。中央政府の管轄は水利部。プロジェクトの目的は、以下の2つである。

- ア 土地及び水資源のより持続的・効率的な利用によって農業生産・収入の増加させる。
- イ 土壌浸食の激しい場所を選び、浸食を防ぎ、土壌流出を削減する。

プロジェクトには、耕作地開発、浸食谷安定、灌漑、傾斜地保全、植林・植生回復の各事業が含まれている。総事業費は、2億5000万USドル。世界銀行によるプロジェクト評価は1999年1月18日に終了している。

(2)甘肅河西回廊プロジェクト(China Gansu Henxi Corridor Project)³³

対象地域は、河西回廊最西端地方のShule河流域。Yumen郷に設置されたShule River Basin Project Management Bureauが実施責任機関で、その上にGansu World Bank Projects Implementation Commission GansuとBureau of Water Resourcesが諮問委員会としてある。プロジェクトの目的は以下の3つである。

- ア 甘肅省中央・南東部の貧困農民約20万人を河西回廊に新たに創出した灌漑地に移住させ、貧困改善を実施する。
- イ 甘肅省の農業生産を増加させる。
- ウ 悪化した環境を保護・改善する。

プロジェクトには、ダム(Changmaダム)建設、灌漑排水、農業、住民移住、環境保護管理、訓練の各事業が含まれている。総事業費は、26億9760万元。プロジェクトの実施期間は1996年からの10年間。

6.2 国際協力銀行³⁴

国際協力銀行は2000年度対中国円借款として計23案件、総額1,971億9,700万円を限度とする貸し付けを決め、2001年3月30日に借款契約に調印した。今次円借款では環境汚染対策支援、砂漠化防止対策支援、内陸部支援が特徴となっている。甘肅省水資源管理・砂漠化防止事業(Gansu Water-Saving Irrigation Project)はその1つである。

本事業は、甘肅省の6地区(張掖地区を含む)にわたる既存灌漑区約8万haにおいて土水路舗装、スプリンクラー等末端の節水灌漑設備の整備を行うことにより、植生被覆増加による砂漠化防止、単位収量増加による農家の生活水準向上、水系からの取水低減による黄河断流現象の軽減等を図り、ひいては中国の自然環境改善に資することを目的にしている。これは国際協力銀行海外経済協力業務実施方針の重点3分野(環境、食料・貧困、地域間格差是正のための内陸部重視)に合致するものである。

借款資金はスプリンクラー等の節水型灌漑施設、土木工事、資材等の調達資金に充当される。借款金額は60億円である。

事業実施機関は、甘肅人民政府(Gansu Provincial People's Government、住所:甘肅省蘭州市静寧路136号、P.O.Code 730030、甘肅省财政厅、TEL: 86-931-885-3668、FAX: 86-931-882-0288)である。

³² 世界銀行Web Site資料より要約。

³³ Staff Appraisal Report: China Gansu Hexi Corridor Project (Report No. 15163-CHA) (The World Bank).

³⁴ 国際協力銀行 www.jbic.go.jpの資料より要約。

第7章 我が国の協力方向性

中国側から要請の出ている開発調査の実施に関し、「1.5 協議概要」にもあるとおり、調査内容、中国側実施体制について、次のような問題提起を行ってきたところ、開発調査の実施にあたっては、本件の整理がされる事を1つの前提条件として実施すべきと考える。

(1) 本件調査の対象範囲

日本側として黒河全体の流域を視野に入れた調査でなければ調査の意義が薄く、また本件調査によって如何に全流域の生態回復が図られたかを説明できないため、調査対象範囲はあくまで黒河流域全体とすべきとの提案を行った。これに対し、中国側より、最終的に黒河全体を調査対象地域とする必要性を認め、下流についての必要なデータについては活用したい旨述べられたが、どこまでデータが開示されるか、またその根拠についても確認する必要がある。

(2) 科学院実施案件との整理

科学院が実施している案件(前述)は、中国側の要請内容(開発調査)と相似しており、また地方政府との連携という体制も確立されている。日本政府としては、内容を同じくする案件を重複して実施することはできないとの説明を行い、環境保護総局(SEPA)がイニシアチブを發揮し、中国政府内での黒河生態保全の協力の役割を整理し明確にして欲しい旨要請した。

(3) 関連政府機関との調整

水利部でも、中国側要請内容(開発調査)と類似の調査を計画中とのことであり、同計画をはじめ関係各部局との調整、協調を環境保護総局が責任を持って行うように要請した。